

## 今日のみことば

### □ 6月3日(日) 列王記下 13章

エホアハズは、イスラエルがアラムに支配されていた17年間を統治した。ヨシュアは16年間統治した。アラムとの戦いに勝利するとエリシャの預言が成就した。エリシャの死去。

### □ 6月4日(月) 列王記下 14章

アマツヤは26年間統治した善き王であった。エドムに勝利し高慢して、強国イスラエルに挑戦して敗北する。ヤロベアム二世は神の言葉に忠実ではなかったが、神は彼を用いられた。

### □ 6月5日(火) 列王記下 15章

ユダの王アザルヤは主の目に適おうことを行ったが、偶像礼拝の祭壇を残した。たとえ主を信じていても、少しでも主に従わないものが残っておればそこから崩れる。

### □ 6月6日(水) 列王記下 16章

イスラエル王国の王たちは、一人残らず不信仰者であったがユダ王国の中にも不信仰者はいた。アハズ王は「イスラエルの王たちの道を歩み」異教の礼拝をささげました。

### □ 6月7日(木) 列王記下 17章

ここには北イスラエル王国の滅亡が記されている。王ホセアはエジプトと同盟を結んで、アッシリアと対抗しようとしてアッシリアの侵入により国を滅ぼしてしまった。

### □ 6月8日(金) 列王記下 18章

ヒゼキヤはユダの王の中で最良の善き王であった。彼は神の言葉に忠実で、偶像礼拝の対象となるものすべてを、ユダの国中から遠慮なく取り除いた。

### □ 6月9日(土) 列王記下 19章

神はヒゼキヤ王の祈りに答え、彼の信頼が正しいことを証明された。イザヤは主の言葉をもってヒゼキヤを励まし、アッシリア王の帰国とその死を預言しました。

---

ろ ぼ No. 1870  
2018年 6月 3日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ルカ 17:4

一日に七回あなたに罪を犯しても、七回、「悔い改めなさい」と言っておもてなすところに来るなら、赦してやりなさい。

この御言葉は、家族のことを心に留めさせていただいている中で私たちの人間関係の中で、いつも心にかかっていることです。しかし、そこでもイエスがしっかりと何があっても心のかけさせていたかねばならない、大切なことを語ってくださる言葉を聞かせていただくのです。

思い出してください。エジプトの宰相にまでなったヨセフのことです。ヨセフ兄たちの奸計によってエジプトに売られました。そのヨセフと再会した兄たちは、自分たちがヨセフにした行為がいかなるものであったかを十分に理解していませんでしたから、ヨセフからの報復を恐れ続けていました。父が死んで、兄たちがヨセフに恐れをい

いて「悪を行ったことを、心から悔いて赦しを求めました。ヨセフは兄たちに言いました。「恐れることはありません、わたしが神に代わることができましようか。あなたがたはわたしにたいして悪をたくらんだが、神はそれを良きにかわらせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。それゆえ恐れることはありません。わたしはあなた方とあなた方の子どもたちを養いましょう」と彼らを慰め、親切に語った」(創世記50:19-20)とことを私たちは知っています。

私たちは私たちが生活する中で、何が大切であるか、イエスはいつも語ってきて下さったことです。「イエスは弟子たちに

言われた。「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。」と言われました。しかしイエスはこうもいわれました。「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」(ルカ17:1-5)と。この言葉を本当に私はしっかりと聞かせていただいています。それでも私はときどき、許しにも、限度があるとその言葉に反論させていただくことがないとおれないときがあります。その時もう一つの同じ許しを語られたイエスの言葉です。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」(マタイ17:22)との言葉でした。

この時突然に、関連のないお話しですが思い起こさせられたものがありました。西南学院の広報誌でパークレイ学長が西南学院の建学精神である「西南よ、基督に忠実なれ！」との言葉がどのように全学院の教育に浸透しているかを語られた言葉でした。「お預かりしている皆さん一人ひとり愛され守られていることを知り、その上に、自分のためだけではなく、奉仕をする精神を身に付け、他者や弱者に寄り添う人生を送りつつ、それぞれの周りに平和を作り出すひとを育成することを理念とします。現在活動されているボランティア活動に触れられた言葉でした。

イエスの「ゆるしなさい」との言葉を、それを含めてイエスが私たちの求めておられること。しっかり十字架のイエスに聞かせていただきたいです。

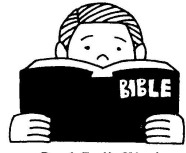
次週の聖書・説教	エペソ5:21-6-4 家庭での責任
----------	--------------------

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
コリント二 4:1-15 イエスの死を体にかけて

パウロがコリント教会の信徒たちの歩みについて、いつも心にかかることは、彼らがしっかりと主イエスを信じる信仰に生きることができていないということでした。

誤った教えを持ち込んだ人たちが、幅をきかせているという現実でした。パウロは非難的にされていました。しかしパウロには自信がありました。ほめたたえられるべきはこのパウロではない。ほめたたえられるべきは主イエス。「私たちは、このような宝を土の器に納めています」と言いました。

本当に私たちにキリストにあって生かされている一人ひとりです。「私たちは、いつもイエスの死を体にかけています」復活のイエスが私たちの同伴者であることを忘れてはいけません。パウロはこのことをしっかりと心得るべく勧めをしました。これは「あなたがたのためであり、多くの人が豊かに恵みを受けて、感謝の念に満ちて神に栄光を帰する」ためです。



Read God's Word.